

さくら咲き 心地よいまち ずっとめぐろ

MEGURō

めぐろ区報



8 | 1 令和7年(2025年)
NO.2214



忘れない、



平和が消えた日々



Main Contents

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| p.2・3 特集 戦後80年 目黒区民の戦争体験 | p.7 LDH JAPAN協力!MDCダンサー募集 |
| p.4・5 未来へつなげよう 平和の尊さ大切さ | p.12 特殊詐欺の被害に遭わないために! |



発行／目黒区 編集／広報広聴課 〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15 ☎3715-1111(センター・代表) ☎5722-8674(広報広聴課)
区報配布のお問い合わせ ☎0120-221-523(月～土曜日9:00～17:30(祝・休日を除く)) 毎月2回(1・15日)発行

戦後
80年

目黒区民の戦争体験

忘れない、平和が消えた日々

令和7年、戦後80年を迎えます。平和が当たり前でなく、戦争の影響を強く受けた日々を、私たちはどれだけ想像できるでしょうか。

今回の特集では、目黒区で生まれ育ち、戦争を体験した二人に、当時の暮らしや疎開先での経験、空襲の記憶などを語っていただきました。身近なまちで起きた出来事を通じて、「平和とは何か」をいま一度考えてみませんか。

問 総務課総務係(TEL 5722-9205, FAX 5722-9409)



夜空がだいだい色になったあの日、めぐろは焼け野原になった

うすだ れいこ
臼田禮子さん(92歳)

昭和8年、目黒区東町(現在の目黒本町5丁目)に生まれる。戦時に山梨県や山形県へ疎開。女学校では学徒勤員も経験。戦後、目黒区に戻り、復興するまちの変化を見守りながら暮らす。

私が幼い頃の目黒区は、畑や牧場が広がっているのんびりしたまちでした。川遊びをして過ごしていた私が、最初に戦争を知ったのは、小学3年生の時。ラジオから流れた日米開戦の放送でした。その日を境に戦争の影が色濃くなってきました。配給が始まり、お米はめったに口にできなくなり、サツマイモや豆を混ぜたご飯が当たり前に。まちの人はみんなもんべをはいて、「我慢すること」が日常になっていました。

昭和19年には、集団疎開で山梨県の農村へ。何よりつらかったのは、空腹でした。掘り残されたサツマイモを拾ってかじるほどひもじかったです。隣村の人を見かねて食べさせてくれたおはぎの味は、今でも忘れられません。

進学のために目黒区に戻った矢先、昭和20年の大空襲を経験しました。警報が鳴り響く夜に東京湾の方角を見ると、空がだいだい色に染まっていました。空襲を受けた翌朝、私の家も焼けてさら地になってしまい、多く

の人が亡くなりました。焼け跡に集められた黒焦げの遺体にも慣れてしまって、何も感じなくなっていました。

戦争は、悲惨です。勝っても負けても得をしません。だからこそ、平和な日常の尊さを次世代の人々には感じてもらい、生きることの喜びを実感してもらいたいです。

記憶の場所

すずめのお宿緑地公園



目黒区の平和記念事業

区では、平和都市宣言に認められた誓いの実現を目指し、平和に関するさまざまな事業を行ってきました。

(昭和60年度) (昭和61年度)

- ・目黒区平和都市宣言
- ・第1回平和祈念のつどい実施
- ・めぐろ平和の鐘設置
- ・第1回平和の石のつどい実施



(平成2年度)

- 平和の特派員の広島派遣を開始
- 未来を担う子どもたちに、原子爆弾の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、そして平和の尊さについて考え、学ぶ機会を提供するため、広島市へ派遣事業を始めました。



(平成17年度)

- 戦後60年平和祈念のつどい
- 平和祈念合唱を実施
- 戦後60年目の平和祈念のつどいでは、区内小学生の合唱団による合唱を行いました。



(令和2年度)

被爆体験記録集を作成

戦後75年の節目を契機として、区民の被爆体験記録集(動画・冊子)を作成しました。



被爆体験記録集は
こちらから
ご覧になれます

(令和7年度)

「空襲記 銃後の目黒と疎開した我が子の記録」を刊行

区のかたが執筆した、原稿用紙160枚に及ぶ戦争体験記録が発見されました。この記録をご家族へのインタビュー・資料解説・論考と共に一冊にまとめて刊行します。

